

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

| | |
|--------------------|--|
| 教員氏名 | 酒井 健太郎 |
| 主な担当科目 | 図書・図書館史,基礎ゼミ,音楽情報論,芸術運営演習,図書館実習,音楽芸術運営基礎演習 |
| シラバス | 次ページをご参照ください |
| 2022年の教育目標・授業に臨む姿勢 | <p>授業は「いま、ここで」しか起こり得ないもの(ライブと同様)なので、各回の授業を大切に実施する。</p> <p>講義科目については授業準備をきちんとすることを最重要事と位置づける。授業各回の受講生にとっての目標・位置づけを明確化する。また授業内容が受講生の今後の学修や人生といかに関係のあることが説明し、授業に積極的に取り組んでもらうようにする。</p> <p>演習科目については学生の状況に応じた指導をする。受講者の関心事項、問題意識、思考力、言語運用力に応じて、それぞれが最適なテーマ、対象、方法を設定し、当初想定していた(あるいはそれ以上の)成果を上げられるようサポートする。</p> <p>実習科目では音楽の現場におけるコミュニケーション能力と積極性、さらに相手の置かれた状況や思考を想像することの大切さを認識してもらうように指導する。</p> |
| 2022年の教育に関する自己評価 | <p>各回の授業を大切にすることについては、取り組みのあり方としては目標を達成できた。しかし授業内容については不断の見直しが必要だと感じる。引き続き取り組みたい。</p> <p>講義科目は、授業の目標・位置づけを明確にし、また受講生に関心を持ってもらえるよう工夫できた。</p> <p>演習科目については、受講生各人の関心や能力等に応じて指導をできた。</p> <p>実習科目では所期の目標は達成することができた。</p> |
| 2022年のFD活動に関する自己評価 | <p>出席すべきFD研修会には全回、参加した。全体研修会の学内組織ではモデレーターとして意見交換の活性化に努め、また書記として出された意見の集約を担った。各学内組織のFD研修会では、実技の担当ではない教員の目に映る事例を報告・共有するようにして、実技系の先生方との意見交換に努めた。</p> |
| 授業改善のために取り入れた研修内容 | <p>基礎ゼミのFD研修会では、学内組織主査として、科目担当の先生方に個別クラス授業の全体像が見えるようにし、その中で各回の授業を位置づけることで、個別クラス全体を大きく連関するのうちに実施していただけるよう配慮した。</p> <p>アートマネジメントの学内組織では、書記・留学生委員会委員として、特に大学院の大半を占める留学生とのコミュニケーションからわかったことや感じられたことを共有し、留学生への接し方、授業実施時の留意点などを意見交換した。</p> |

科目名－クラス名

図書・図書館史

曜日時限

集中

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 講義 | 3～ | 前期 | 1 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

図書館情報資源および図書館の歴史について学び、図書館の果たしてきた社会的機能・役割を理解する。
図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態や生産方式の変遷について、また普及と流通等の歴史について学ぶ。
情報資源の発展と社会との関わりのなかで発展してきた図書館について、日本の図書館史を中心にその歴史的発展を学ぶ。

学修成果

日本および他国・地域の古代から現代に至る図書・図書館の歴史を説明できるようになる。

授業展開と内容

第1回 導入、紙以前：紙、図書の形態史（教科書UNIT 0-3）

第2回 印刷術（教科書UNIT 4-6）

第3回 マスメディアの誕生と発達、メディアの多様化（教科書UNIT 7-10）

第4回 世界の図書館：古代-近世（教科書UNIT 11-13）

第5回 世界の図書館：近現代（教科書UNIT 14・15）

第6回 日本の図書館：前近代-近代（教科書UNIT 16-19）

第7回 日本の図書館：現代（教科書UNIT 20～25）

第8回 図書・図書館の歴史と未来像（まとめとディスカッション）

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

授業後にレポートを課す。これをもって成績評価をおこなう。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業までに教科書の該当箇所を通読し、時代背景を調べておくこと（合計30時間程度）。
レポートはコメントを付して返却する。

教科書・参考書

教科書：小黒浩司（編著）『図書・図書館史』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII-11）、日本図書館協会、2013年。

科目名－クラス名

図書・図書館史

曜日時限

担当教員

集中

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 講義 | 2～ | 前期 | 1 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 0 | 100 |
| | | | | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

図書館情報資源および図書館の歴史について学び、図書館の果たしてきた社会的機能・役割を理解する。
 図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態や生産方式の変遷について、また普及と流通等の歴史について学ぶ。
 情報資源の発展と社会との関わりのなかで発展してきた図書館について、日本の図書館史を中心にその歴史的発展を学ぶ。

学修成果

日本および他国・地域の古代から現代に至る図書・図書館の歴史を説明できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 導入、紙以前：紙、図書の形態史（教科書UNIT 0-3）
- 第2回 印刷術（教科書UNIT 4-6）
- 第3回 マスメディアの誕生と発達、メディアの多様化（教科書UNIT 7-10）
- 第4回 世界の図書館：古代-近世（教科書UNIT 11-13）
- 第5回 世界の図書館：近現代（教科書UNIT 14・15）
- 第6回 日本の図書館：前近代-近代（教科書UNIT 16-19）
- 第7回 日本の図書館：現代（教科書UNIT 20～25）
- 第8回 図書・図書館の歴史と未来像（まとめとディスカッション）
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

授業後にレポートを課す。これをもって成績評価をおこなう。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業までに教科書の該当箇所を通読し、時代背景を調べておくこと（合計30時間程度）。
 レポートはコメントを付して返却する。

教科書・参考書

教科書：小黒浩司（編著）『図書・図書館史』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII-11）、日本図書館協会、2013年。

科目名－クラス名

基礎ゼミ

曜日時限

火 5時限

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 | |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|----|------|
| | | | | 定期試験 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | | | 成果発表 |
| 講義 | 1～ | 前期 | 2 | | 0 | 40 | 0 | 0 | 60 | 100 |

教育到達目標と概要

初年次の導入教育として「大学における学び」のためのスタートアップを行う。

- ①自分自身の学びの環境を知る（建学の精神、カリキュラム、大学内の学修・研究施設のツアー）
- ②「大学で学ぶ」とは？（大学での学び、本学の特徴的な科目とその意味）
- ③自ら主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得（図書館ガイダンス、情報モラルとリスクマネジメント）
- ④キャリアデザインを描く（学修ポートフォリオ）
- ⑤コミュニケーション・スキルを学ぶ（グループワークによる情報の収集・整理・プレゼンテーション・ディスカッション）

学修成果

1. 「聴く・読む・調べる・まとめる・書く・伝える」等から、知識・技能・態度を身につけることができる。
2. コミュニケーションスキル、情報リテラシー等から論理的な思考力や汎用力を身につけ、今後に役立てることができる。
3. 主体的で探究的な学びをととして、課題を発見し解決を図る力を身につけ今後活かすことができる。
4. キャリアデザインを描くことができる。

授業展開と内容

第1回 【合同授業（4月のオリエンテーション内）】

礼節技の人間教育、大学内の学修・研究施設ガイダンス
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第2回 【合同授業（4月のオリエンテーション内）】

本学の特徴的な科目（芸術特別研究、音楽活動研究）、キャリア講座
 (担当：基礎ゼミ担当教員、各授業担当教員ほか)

第3回 【合同授業】

大学のカリキュラムについて、テアトロ・ジーリオ・ショウワの紹介
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第4回 【合同授業】

大学での学びについて、図書館ガイダンス
 (担当：基礎ゼミ担当教員、図書館職員)

第5回 【合同授業】

大学での学びについて、ポートフォリオの活用
 (担当：基礎ゼミ担当教員、岩村哲)

第6回 【合同授業】

情報モラル、研究倫理、リスクマネジメントについて
 (担当：基礎ゼミ担当教員、情報セキュリティ・研究倫理担当教職員)

第7回 【個別クラス】

学ぶための技法：読む・聴く・調べる・整理する ～自己紹介と目標設定～
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第8回 【個別クラス】

学ぶための技法：まとめる・書く① ～レポートのテーマを考える～
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第9回 【個別クラス】

学ぶための技法：まとめる・書く② ～レポートを執筆する～（レポート課題提出）
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第10回 【個別クラス】

学ぶための技法：まとめる・書く③ ～レポートの講評～ / 表現する・伝える
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第11回 【個別クラス】

課題発見とその解決
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第12回 【個別クラス】

プレゼンテーションの準備
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第13回 【個別クラス】
 プレゼンテーション（授業内小テスト）
 （担当：基礎ゼミ担当教員）

第14回 【合同授業】
 各専攻教員による講座でプレゼンテーション能力を高める
 （担当：基礎ゼミ担当教員ほか）

第15回 【合同授業】
 全体発表（選抜されたグループによる発表）
 （担当：基礎ゼミ担当教員）

| | |
|------|--|
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

- ・授業は、講義のほか、少人数グループでの話し合い・発表など、グループで協力して行うことが多いので、他メンバーに迷惑をかけないように遅刻・欠席等に対する自覚を持って出席・参加してください。
 - ・合同授業では授業後に感想等をMS Formsに入力してもらいます。これは授業内小テスト（30%）に相当します。提出（送信）時にスクリーンショット（または画面の写真）をとる、提出者自身に送信内容が送られるようにするなどして、記録を残してください。
 - ・第4回授業の授業外学修として、「図書館ツアー」と「OPACガイダンス」に必ず参加してください。
- ※注意：新型コロナウイルス対応のため変則的な運用をする可能性がありますので、ポータルサイトでのお知らせをよくチェックしてください。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・予習として事前にテキストを確認し、関連する情報を収集する（30分程度）、復習として毎回の授業の要点や感想をまとめる（30分程度）など、主体的に学修すること。
- ・「図書館ツアー」と「OPACガイダンス」に必ず参加すること（第4回授業で説明します）。
- ・そのほか、必要に応じて都度、指示します。
- ・授業で提示した課題等については、授業内でフィードバック（解説、要点の確認）します。

教科書・参考書

- ・「基礎ゼミ」専用の電子版テキストを配付します。

科目名－クラス名

基礎ゼミ

曜日時限

火 5時限

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 定期試験 | | | | 授業内小テスト | |
| 講義 | 1～ | 前期 | 2 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 60 | 100 |
| | | | | 0 | 40 | 0 | 0 | | |

教育到達目標と概要

初年次の導入教育として「大学における学び」のためのスタートアップを行う。

- ①自分自身の学びの環境を知る（建学の精神、カリキュラム、大学内の学修・研究施設のツアー）
- ②「大学で学ぶ」とは？（大学での学び、本学の特徴的な科目とその意味）
- ③自ら主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得（図書館ガイダンス、情報モラルとリスクマネジメント）
- ④キャリアデザインを描く（学修ポートフォリオ）
- ⑤コミュニケーション・スキルを学ぶ（グループワークによる情報の収集・整理・プレゼンテーション・ディスカッション）

学修成果

1. 「聴く・読む・調べる・まとめる・書く・伝える」等から、知識・技能・態度を身につけることができる。
2. コミュニケーションスキル、情報リテラシー等から論理的な思考力や汎用力を身につけ、今後に役立てることができる。
3. 主体的で探究的な学びをととして、課題を発見し解決を図る力を身につけ今後活かすことができる。
4. キャリアデザインを描くことができる。

授業展開と内容

第1回 【合同授業（4月のオリエンテーション内）】

礼節技の人間教育、大学内の学修・研究施設ガイダンス
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第2回 【合同授業（4月のオリエンテーション内）】

本学の特徴的な科目（芸術特別研究、音楽活動研究）、キャリア講座
 (担当：基礎ゼミ担当教員、各授業担当教員ほか)

第3回 【合同授業】

大学のカリキュラムについて、テアトロ・ジーリオ・ショウワの紹介
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第4回 【合同授業】

大学での学びについて、図書館ガイダンス
 (担当：基礎ゼミ担当教員、図書館職員)

第5回 【合同授業】

大学での学びについて、ポートフォリオの活用
 (担当：基礎ゼミ担当教員、岩村哲)

第6回 【合同授業】

情報モラル、研究倫理、リスクマネジメントについて
 (担当：基礎ゼミ担当教員、情報セキュリティ・研究倫理担当教職員)

第7回 【個別クラス】

学ぶための技法：読む・聴く・調べる・整理する ～自己紹介と目標設定～
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第8回 【個別クラス】

学ぶための技法：まとめる・書く① ～レポートのテーマを考える～
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第9回 【個別クラス】

学ぶための技法：まとめる・書く② ～レポートを執筆する～（レポート課題提出）
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第10回 【個別クラス】

学ぶための技法：まとめる・書く③ ～レポートの講評～ / 表現する・伝える
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第11回 【個別クラス】

課題発見とその解決
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第12回 【個別クラス】

プレゼンテーションの準備
 (担当：基礎ゼミ担当教員)

第13回 【個別クラス】
 プレゼンテーション（授業内小テスト）
 （担当：基礎ゼミ担当教員）

第14回 【合同授業】
 各専攻教員による講座でプレゼンテーション能力を高める
 （担当：基礎ゼミ担当教員ほか）

第15回 【合同授業】
 全体発表（選抜されたグループによる発表）
 （担当：基礎ゼミ担当教員）

| | |
|------|--|
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

- ・授業は、講義のほか、少人数グループでの話し合い・発表など、グループで協力して行うことが多いので、他メンバーに迷惑をかけないように遅刻・欠席等に対する自覚を持って出席・参加してください。
- ・合同授業では授業後に感想等をMS Formsに入力してもらいます。これは授業内小テスト（30%）に相当します。提出（送信）時にスクリーンショット（または画面の写真）をとる、提出者自身に送信内容が送られるようにするなどして、記録を残してください。
- ・第4回授業の授業外学修として、「図書館ツアー」と「OPACガイダンス

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・予習として事前にテキストを確認し、関連する情報を収集する（30分程度）、復習として毎回の授業の要点や感想をまとめる（30分程度）など、主体的に学修すること。
- ・「図書館ツアー」と「OPACガイダンス」に必ず参加すること（第4回授業で説明します）。
- ・そのほか、必要に応じて都度、指示します。
- ・授業で提示した課題等については、授業内でフィードバック（解説、要点の確認）します。

教科書・参考書

- ・「基礎ゼミ」専用の電子版テキストを配付します。

科目名－クラス名

音楽情報論

曜日時限

水 3時限

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|---------|
| | | | | 定期試験 | | | | | |
| 講義 | 3～ | 通年 | 4 | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト |
| | | | | 評価割合 | 0 | 25 | 0 | 50 | 25 |

教育到達目標と概要

本科目では、第一に、音楽を「見る」ことについて、聴覚／視覚、リアル／バーチャルといった観点から検討する。

第二にカバー（や模倣、引用、パロディ、コラージュ、リミックス）されることによって音楽の意味が変容することに注目して、音楽の「情報を運ぶメディア」としての面を検討する。

履修者にはプレゼンテーション（前・後期各1回、ただし履修者数によっては通年1回とする）、課題提出（後期1回）、授業内作文（授業内小テスト、授業3回に1回の割合で実施）を課し、それにより成績評価をおこなう。

学修成果

- ・音楽のありようをメディアおよびメディア・テクノロジーの進化・発展と関係づけて理解することができる。
- ・メディアによって伝達される音楽情報の内容と意図を正しく理解し、必要な情報を選択することができる。
- ・音楽情報を発信するためのリテラシーあるいはノウハウを持ち、メディアを利用して情報を発信できる。
- ・自分の主張とその根拠を正しく表明することができる。

授業展開と内容

第1回 本授業への導入：何が問題か（音楽とメディア、テクノロジー）
* プレゼン課題の説明・日程調整

第2回 音楽を聴くか、見るか

第3回 音楽に関わるメディアの概史
* プレゼン1

第4回 クラシック音楽を「見せる」
* プレゼン2

第5回 クラシック音楽を「見せる」必要はあるか
* プレゼン3

第6回 自分を見せたかった音楽家
* プレゼン4

第7回 見せると聞こえてくる？
* プレゼン5

第8回 見せないとうどう聞こえるか
* プレゼン6

第9回 自分を見せないアーティスト：リアル
* プレゼン7

第10回 自分を見せないアーティスト：リアルとバーチャルの間で
* プレゼン8

第11回 自分を見せないアーティスト：バーチャル
* プレゼン9

第12回 もう人間は必要ないのではないか：バーチャルとしての「音楽機械」
* プレゼン10

第13回 音楽を「見る」：ミュージックビデオ（映像つきの音楽）
* プレゼン11

第14回 音楽を「見る」：ミュージックビデオ（音楽つきの映像?）
* プレゼン12

第15回 前期のまとめ：聴覚と視覚／音楽は「見る」ものか

第16回 さまざまな楽曲カバー：1曲めの事例の紹介
* 後期プレゼンの日程調整

第17回 さまざまな楽曲カバー：1曲めのもう1つの事例の紹介

第18回 さまざまな楽曲カバー：1曲めの事例の背景の分析
* プレゼン13

第19回 さまざまな楽曲カバー：2曲めの事例の紹介と分析、音楽は何を運ぶか

* プレゼン14

第20回 さまざまな楽曲カバー：2曲めの事例をもとに音楽は何を運ぶか
* プレゼン15

第21回 後期提出課題についての説明

第22回 さまざまな楽曲カバー：3曲めの事例の紹介
* プレゼン16

第23回 さまざまな楽曲カバー：3曲めの事例をもとにカバーによる文脈の転換・意味の変容について
* プレゼン17

第24回 さまざまな楽曲カバー：カバーをすると何が起るか
* プレゼン18

第25回 さまざまな楽曲カバー：ジャンルを超える
* プレゼン19

第26回 音楽の引用：事例の紹介
* プレゼン20

第27回 コラージュされた音楽：事例の紹介、その行き着く先にあるものは
* プレゼン21

第28回 リミックスされる音楽：事例の紹介
* プレゼン22

第29回 音楽の2次創作で生じた問題、作品の同一性について

第30回 1年間のまとめ：音楽とメディア、テクノロジー、これからの音楽
* 後期提出課題についてのフィードバック

履修上の注意

筆記用具を持参すること。遅刻・欠席をしないようにすること。
授業中のディスカッションに積極的に参加すること（あらかじめその準備をしておくこと）。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

各回で扱った音源・映像を、授業後に視聴し、またそれに関する情報を収集し、自分の考えをまとめておくこと（各回1時間以上）。
個人あるいは共同体・社会にとって、音楽はどのようなものでありうるか（どのような意味をもつか）、各回のテーマをもとに検討すること（各回1時間以上）。
授業内小テストに対しては授業担当者がコメントをして返却する。プレゼンに対しては履修者全員ならびに授業担当者のコメントによりフィードバックする。提出課題については授業最終回にフィードバックする。

教科書・参考書

教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。
また随時、参考書・参考ウェブサイトを紹介する。積極的に学んでほしい。

科目名－クラス名

芸術運営演習

B

曜日時限

火 1時限

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 演習 | 3～ | 通年 | 2 | 0 | 50 | 0 | 50 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

翌年度の卒業研究・論文執筆に向けて、研究のテーマ・手法について知識と理解を深めることを目標とする。

ディスカッション等により論理的思考とプレゼンテーションの能力を養い、他の履修者と研究上の関心を共有する。

クラス毎に履修者の報告をもとにディスカッションをおこなうほか、他の履修者や上級生とグループ研究やフィールドワークなどをおこなうことがある。

履修者は年度末にまとめレポート（4,000字程度）を作成し提出するほか、報告会で各クラスの活動の概要と成果を報告する。これらにより成績評価をおこなう。

学修成果

- ・研究のテーマ・手法についての知識・理解を深め、論理的思考ができるようになる。
- ・効果的なプレゼンテーションと的確な文章表現ができるようになる。
- ・他者と協働し、スムーズなコミュニケーションができるようになる。

授業展開と内容

| | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス（全体） |
| 第2回 | 関心ある研究課題について報告し、ディスカッションする |
| 第3回 | 他の履修者の関心ある研究課題についての報告を聞き、ディスカッションする |
| 第4回 | 関心ある研究課題について情報収集し、それにもとづきディスカッションする |
| 第5回 | 他の履修者が収集した情報に関する報告を聞き、ディスカッションする |
| 第6回 | 関心ある研究課題の周辺領域について情報収集し、それにもとづきディスカッションする |
| 第7回 | 他の履修者が収集した周辺領域についての情報に関する報告を聞き、ディスカッションする |
| 第8回 | 研究課題を絞り込み、それにもとづきディスカッションする |
| 第9回 | 他の履修者が絞り込んだ研究課題についての報告を聞き、ディスカッションする |
| 第10回 | 研究手法について報告し、ディスカッションする |
| 第11回 | 他の履修者の研究手法についての報告を聞き、ディスカッションする |
| 第12回 | 絞りこんだ課題・手法により文献調査を実施し、成果を報告、ディスカッションする |
| 第13回 | 他の履修者の文献調査の成果の報告を聞き、ディスカッションする |
| 第14回 | 研究課題・手法の見直しについてディスカッションする |
| 第15回 | 前期の研究成果を報告し、夏休み中の研究計画についてディスカッションする |
| 第16回 | 夏休み中の研究成果を報告し、ディスカッションする |
| 第17回 | 他の履修者の夏休み中の研究成果の報告を聞き、ディスカッションする |
| 第18回 | 後期の研究計画についてディスカッションする |
| 第19回 | 研究計画に沿って、研究・フィールドワークを実施し、成果を報告、ディスカッションする |
| 第20回 | 他の履修者の研究・フィールドワークの成果の報告を聞き、ディスカッションする |
| 第21回 | ここまでの研究成果をまとめて報告し、ディスカッションする |
| 第22回 | 研究計画の見直しについて報告し、ディスカッションする |
| 第23回 | 見直した研究計画に沿って、研究・フィールドワークを実施し、成果を報告、ディスカッションする |
| 第24回 | 他の履修者の研究・フィールドワークの成果の報告を聞き、ディスカッションする |
| 第25回 | 一年間の研究成果を報告し、ディスカッションする |
| 第26回 | 他の履修者の一年間の研究成果の報告を聞き、ディスカッションする |
| 第27回 | レポートのテーマ、章立てについて報告し、ディスカッションする |
| 第28回 | レポートの内容について報告し、ディスカッションする |
| 第29回 | 報告会に向けて準備する |
| 第30回 | 報告会にて一年間の研究成果を報告する（詳細は別途指示する） |

履修上の注意

- ・翌年度の卒業研究の基礎を固める科目であるので、履修者は主体的に取り組むこと。
- ・授業時間外での学修に十分な時間をかけること。
- ・担当教員と密に連絡をとり、参考書や調査対象等についてアドバイスを受けること。
- ・提出物等に関する通知・連絡に注意すること（締め切りを過ぎた提出物は受け付けない）。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・授業では、履修者による報告をもとにディスカッション（フィードバック）するので、授業時間外に各自の関心に応じて情報収集・整理などを進めて、報告の準備をすること（各回60分以上）。

教科書・参考書

参考書：外山滋比古『思考の整理学』（ちくま文庫、1986年）。酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』（共立出版、2007年）。小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009年）。その他、各自の研究テーマに応じて指示する。

科目名－クラス名

図書館実習

曜日時限

集中

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|-------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 実技・実習 | 4～ | 通年 | 1 | 0 | 70 | 0 | 30 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

事前・事後学修の指導を受けつつ、実際の現場での業務を実習する。
図書館に関する科目で得た知識・技術および図書館の業務・運営の実際について理解を深める。
事前指導は2回、事後指導は1回、実習期間は1～2週間。
成績は課題提出（実習ノート提出）、事後指導での成果発表により評価する。

学修成果

図書館現場での実際の仕事を通じて、これまでの授業で学んだ知識をより確実なものにすることができる。
図書館の業務・運営の実際について理解することができる。

授業展開と内容

- 第1回 事前指導1： 図書館実習終了者の体験報告を聞き、図書館実習の全容を理解し、実習に向けての準備を始める。
- 第2回 事前指導2： 実習先の図書館について調査する。「図書館実習記録ノート」の記入方法やその他の手続きについて理解する。
- 第3回 図書館実習1： 実習先の指導のもとで実習を行う。ガイダンス（実習先の図書館を知る）など。
- 第4回 図書館実習2： 実習先の指導のもとで実習を行う。書架整理業務など。
- 第5回 図書館実習3： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の装備など。
- 第6回 図書館実習4： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の配架など。
- 第7回 図書館実習5： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の受入業務など。
- 第8回 図書館実習6： 実習先の指導のもとで実習を行う。新聞雑誌の受入業務など。
- 第9回 図書館実習7： 実習先の指導のもとで実習を行う。貸出返却業務など。
- 第10回 図書館実習8： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の補修など。
- 第11回 図書館実習9： 実習先の指導のもとで実習を行う。レファレンス業務など。
- 第12回 図書館実習10： 実習先の指導のもとで実習を行う。児童サービス（読み聞かせ等）など。
- 第13回 図書館実習11： 実習先の指導のもとで実習を行う。移動図書館、映画鑑賞会等準備など。
- 第14回 図書館実習12： 実習先の指導のもとで実習を行う。移動図書館、映画鑑賞会等実施など。
- 第15回 事後指導： 図書館実習における成果や課題、疑問点等を発表し、自らの資質・能力の向上に向けての学修課題を明らかにする。

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

履修上の注意

履修要綱に示されている条件を満たさなければ履修できないので注意すること。
実習の事前指導および事後指導には必ず出席すること。

実習先図書館からの指示に従うこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

これまでに図書館関係科目で学んだことを総復習し（計9時間以上）、さらに、事前に実習先図書館について調べておくこと（計1時間以上）。
実習中の業務内容は実習先によって異なるので、実習中は業務に合わせて予習復習をすること（計4時間以上）。
学修の成果についてのフィードバックは、事後指導において、また実習記録ノートを通じておこなう。

■ 教科書・参考書

実習に向けての諸手続き・準備等を一覧にしたスタンプラリー・シートを配付するので、これを完結させること。
その他の資料は授業内で配付する。
図書館に関する科目で使用した教科書を参照すること。

科目名－クラス名

図書館実習

曜日時限

集中

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|-------|------|-----|-----|-------|------|------|------|---------|-----|
| | | | | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト | |
| 実技・実習 | 2～ | 通年 | 1 | 0 | 70 | 0 | 30 | 0 | 100 |

教育到達目標と概要

事前・事後学修の指導を受けつつ、実際の現場での業務を実習する。
 図書館に関する科目で得た知識・技術および図書館の業務・運営の実践について理解を深める。
 事前指導は2回、事後指導は1回、実習期間は1～2週間。
 成績は課題提出（実習ノート提出）、事後指導での成果発表により評価する。

学修成果

図書館現場での実際の仕事を通じて、これまでの授業で学んだ知識をより確実なものにすることができる。
 図書館の業務・運営の実践について理解することができる。

授業展開と内容

- 第1回 事前指導1： 図書館実習終了者の体験報告を聞き、図書館実習の全容を理解し、実習に向けての準備を始める。
- 第2回 事前指導2： 実習先の図書館について調査する。「図書館実習記録ノート」の記入方法やその他の手続きについて理解する。
- 第3回 図書館実習1： 実習先の指導のもとで実習を行う。ガイダンス（実習先の図書館を知る）など。
- 第4回 図書館実習2： 実習先の指導のもとで実習を行う。書架整理業務など。
- 第5回 図書館実習3： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の装備など。
- 第6回 図書館実習4： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の配架など。
- 第7回 図書館実習5： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の受入業務など。
- 第8回 図書館実習6： 実習先の指導のもとで実習を行う。新聞雑誌の受入業務など。
- 第9回 図書館実習7： 実習先の指導のもとで実習を行う。貸出返却業務など。
- 第10回 図書館実習8： 実習先の指導のもとで実習を行う。図書資料の補修など。
- 第11回 図書館実習9： 実習先の指導のもとで実習を行う。レファレンス業務など。
- 第12回 図書館実習10： 実習先の指導のもとで実習を行う。児童サービス（読み聞かせ等）など。
- 第13回 図書館実習11： 実習先の指導のもとで実習を行う。移動図書館、映画鑑賞会等準備など。
- 第14回 図書館実習12： 実習先の指導のもとで実習を行う。移動図書館、映画鑑賞会等実施など。
- 第15回 事後指導： 図書館実習における成果や課題、疑問点等を発表し、自らの資質・能力の向上に向けての学修課題を明らかにする。
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

履修要綱に示されている条件を満たさなければ履修できないので注意すること。
 実習の事前指導および事後指導には必ず出席すること。

実習先図書館からの指示に従うこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

これまでに図書館関係科目で学んだことを総復習し（計9時間以上）、さらに、事前に実習先図書館について調べておくこと（計1時間以上）。
実習中の業務内容は実習先によって異なるので、実習中は業務に合わせて予習復習をすること（計4時間以上）。
学修の成果についてのフィードバックは、事後指導において、また実習記録ノートを通じておこなう。

■ 教科書・参考書

実習に向けての諸手続き・準備等を一覧にしたスタンプラリー・シートを配付するので、これを完結させること。
その他の資料は授業内で配付する。
図書館に関する科目で使用した教科書を参照すること。

科目名－クラス名

音楽芸術運営基礎演習

曜日時限

他

担当教員

酒井 健太郎

| 授業形態 | 開講年次 | 開講期 | 単位数 | 評価方法 | | | | その他の試験 | 合計 |
|------|------|-----|-----|------|-------|------|------|--------|---------|
| | | | | 定期試験 | | | | | |
| 演習 | 1～ | 前期 | 1 | 評価種別 | 筆記・実技 | 課題提出 | 作品提出 | 成果発表 | 授業内小テスト |
| | | | | 評価割合 | 0 | 0 | 0 | 100 | |

教育到達目標と概要

音楽芸術運営に関する修士研究の方法論を体得するため、以下をおこなう。

- (1) 研究遂行に必要な基礎知識（研究の手順、情報・文献・資料の収集・活用法、研究計画の立て方等）を確認する。
- (2) 論文作成に必要な日本語の適切な運用、コンピュータの活用、論理的な思考を、実践的に体得する。
- (3) 思考と認識の種々の形式を概観し、それにより思考や認識を相対化する能力を養う。
- (4) あるテーマについて可能な研究手法を検討・議論し、自らの研究を客観的に評価する力をつける。

学修成果

- (1) 研究目的に適切な手法を選択し、研究計画を立てることができる。
- (2) 情報・文献・資料の収集、研究計画の立案、研究成果の発表など、研究推進に関する基礎的な知識を有する。
- (3) 論理的に正しく思考することができ、それを適切な言語運用により表現することができる。
- (4) 自らの研究の学術的な位置づけと社会的な意義を客観的に評価することができる。

授業展開と内容

| | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 研究とは――研究に求められること |
| 第2回 | 研究とは――問いを立てる、研究の目的 |
| 第3回 | 研究とは――問い・研究目的に応じた研究手法 |
| 第4回 | 研究とは――先行研究の整理と批判 |
| 第5回 | 研究とは――文献・資料の検索・収集、引用 |
| 第6回 | 思考方法――クリエイティブ・シンキングとロジカル・シンキング |
| 第7回 | 思考方法――論理学、言語と認識 |
| 第8回 | 調査方法――質的調査と量的調査、データ分析 |
| 第9回 | 調査方法――文献調査とフィールドワーク |
| 第10回 | 認識の方法――観念論と実在論 |
| 第11回 | 認識の方法――言語論的転回 |
| 第12回 | 認識の方法――思考の枠組みの相対化（エピステーメー、パラダイム） |
| 第13回 | 研究成果の発表に向けて――論理的な言語運用、データ整理・提示 |
| 第14回 | 研究成果の発表――学会等での発表、ストーリー、スライド |
| 第15回 | 研究成果の発表――論文執筆 |
| 第16回 | |
| 第17回 | |
| 第18回 | |
| 第19回 | |
| 第20回 | |
| 第21回 | |
| 第22回 | |
| 第23回 | |
| 第24回 | |
| 第25回 | |
| 第26回 | |
| 第27回 | |
| 第28回 | |
| 第29回 | |
| 第30回 | |

履修上の注意

自らの研究を客観的に評価することは、適切な研究手法の選択、ひいてはより良い研究の実施に繋がる。
本講はそのために必要な基礎的な知識と能力を体得することを目的とする。
履修者の授業への積極的な参画を期待する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で紹介した文献に必ず目を通し、各人の仕方で理解しなおすこと（計30時間以上）。
課題（成果発表）に対するフィードバックは授業時間内におこなう。

教科書・参考書

梅棹忠夫『知的生産の技術』、岩波新書、1969年。
佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ』第2版、慶応義塾大学出版会、2012年。
酒井聡樹『100ページの文章術』、共立出版、2011年。（以上、いずれも参考書、副題省略）

2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1851 教員名：酒井 健太郎

基礎ゼミ分科会

1) 評価結果に対する所見

多くのコメントをいただきました。その内容は大きく次のようなものに分けられます。

- ・他コースの人と関わって有意義だった。
- ・他の人と意見交換をして得た学びが多かった。
- ・普段関われないコースの先生の話が聞けて良かった。
- ・新しいことに触れる機会になった。
- ・レポートやプレゼンテーションの勉強になった。
- ・すでに知っていることを浅く広く聞いたので、もっと深い内容がいい。
- ・学内のことがよく分かった（学校の説明は入学したばかりのころでわからなかった。今聞いたらもっとよくわかるかもしれない）。

プラスの評価もある一方で、改善すべき点の指摘もあります。

上掲コメントの最後に言及された「学校の説明」の時期については、入学したばかりの学生にとって情報が多すぎるというコメントがありましたが、早く知っておくとよいだろうと思われる情報もあり、オリエンテーション期間内に実施しています。

2) 要望への対応・改善方策

内容の難易度（特にレポート・プレゼンテーションについて）の感じ方については、受講者によってかなりばらつきがあります。簡単だと感じた方には、テキストの参考文献を見て更に勉強を進めたり、レポートの調査内容を多くしたりして難易度を自分で上げる方法が示せるようにしていきます。難しいと感じた方には、授業内のレポート執筆準備の時間が有効に使えるように、ブレインストーミング、文章の形式のアウトライン、執筆の手順をテキストにより明確に示すといった対応をとります。

3) 今後の課題

テキストのデジタル化については好意的なコメントをいただきましたが、あまり使いやすかったといったコメントはありませんでした。学期末のレポート執筆のころに「役に立つ」と思われるような内容、レイアウトを目指します。

以上

2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1851 教員名：酒井 健太郎

1) 評価結果に対する所見

「図書・図書館史」(1004)は、ほぼ例年と同様の傾向である。積極的に受講した履修者と、資格取得のための必修科目だからという相対的に受動的な履修者の、両者がいる。この授業により「ものの見方や考え方が広がった」という履修者が、受動的な履修者の数を上回ったのは、一つの成果だろうと思う。

「音楽芸術運営基礎演習」(4031)の結果には若干の疑義無しとしない。というのは授業回数・時間については規定通りにおこなっているにも拘らず、それに関する問い(Q3)への回答で半数の履修者が「少し思う」を選択しているからである。この科目は履修者のほとんどが留学生であり、この種のアンケートへの回答の仕方(慣習)が少々異なるのかもしれない。

2) 要望への対応・改善方策

「図書・図書館史」(1004)では、教員と履修者とのコミュニケーションが十分でないという指摘がある。4コマずつ2日間で教科書を一通り講じるという忙しい科目で、履修者とのコミュニケーションを図る余裕はなかなかないのだが、留意したい。履修者は自分の予習・復習が十分でないと認識しているようだ。前述のとおり集中科目のため、予習・復習をせよという指示をすること自体が難しいが、シラバスの授業外学修についての指示をより詳しく書く等で、予習・復習を励行したい。

「音楽芸術運営基礎演習」(4031)については、履修者とのコミュニケーションをより多くして、ニーズを汲み取るようにする。また、授業の準備を丁寧におこない、全体的なレベル向上に務める。

3) 今後の課題

「図書・図書館史」(1004)は、教科書に沿った授業展開から、学修する事項をより大きなまとまり(トピック)にまとめ直して、トピックごとの史的流れとトピック同士の関係の学修への転換に、中長期的に取り組みたい。

「音楽芸術運営基礎演習」(4031)は、授業で講読の対象とする文献について、留学生にも日本人学生にも有意義なものを精選したい。普段からこのことを念頭に置いて、資料・文献調査をおこないたい。

以上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1851 教員名：酒井 健太郎

1) 評価結果に対する所見

「音楽情報論」(2254)は、ものの見方や考え方の変化と満足度についての問い(Q9とQ10)のスコアが例年に比して高い。出席状況と予習・復習に関する問い(Q4とQ8)のスコアが低いのは、例年通りである。

「運営基礎演習」(2253)はゼミの科目である。回答者3名なのであまりスコアは参考にならないが、回答の分布は参考になる。履修者にどのくらいの負荷をかけてよいか(あまり負荷をかけすぎると、学生のモチベーションを却って妨げることになるため)、例年悩むところである(履修対象が3年生で、3年生は他に負荷の高い専門科目があるため)。この年は高負荷から少しずつ負荷を減じていったところ、下げすぎた感がある。

「ピアノ指導法特論」(2587)と「音楽教養演習I」(2591)については、いずれも1コマの講義を受け持っているのみで、また「卒業研究-音楽教養」(2590)は発表会の採点のみ担当のため、ここでは扱わないこととする。

2) 要望への対応・改善方策

「音楽情報論」(2254)では、学修成果を得るための工夫についての問い(Q6)のスコアが低かったところから、さらなる工夫が求められていると考えることができる。この2年ほど、授業内容の再検討を重ね、少しずつ改訂しているところで、この点においてまだ工夫の余地がある。積極的に取り組みたい。また、例年、履修者にプレゼンをしてもらっているのだが、アンケートではこのプレゼンをもっとやりたかったという自由記述があった。この年は履修者が多く、各履修者1回しかしてもらうことができなかった。履修者が少なければ2回にすることを考えたい。

「運営基礎演習」(2253)では、出席状況がよくない、予習・復習をしていない履修者に対して、どのように指導をしていくのがよいか、上記の負荷の件と関連させて、要検討である。

3) 今後の課題

「音楽情報論」(2254)については、授業内容・展開の再検討が最重要課題である。履修者数が少ない場合は、履修者がより発言・表現できるような時間をとるようにしたい。

「運営基礎演習」(2253)については、履修者にどの程度の負荷をかけるのがよいか、履修者の様子を見ながら調整する必要がある。近年、感じるのは、負荷をかけずに専門的な事柄を修得させるやり方の可能性があるということである。それを実行するには履修者のメンタル面を整えてやる必要がある。その点も学んでいきたい。

以上